

SNSの投稿数、投稿頻度は生活の満足度に関係しているのか

牛塚聖 (22011038hu@tama.ac.jp)

1. はじめに

研究の背景として、SNSの投稿数や投稿頻度が人の生活の満足度に繋がっているのかを研究する。研究するSNSは1つに絞らず主に全般で考える。

SNSはいろいろな人と関わることができることに加え、生活での写真や現在の様子を投稿し他のユーザーである友達に共有することが主になっており、SNSが生活の一部になっているのではないかと思いこの研究を思いついた。

「インスタ映え」というワードができ、SNSで映えた写真を投稿するためにその場所に行ったり、ご飯を食べに行く人も多い。

研究の目的は投稿数、投稿頻度が生活満足度に関係しているのか、人の環境や心境がSNSに現れるのか調査する。

2. 先行研究の分析

・ SNSを使用してみての満足度は測れるのかという研究。SNSレベルでの満足度分析とその要因についてより深い理解を可能にする可能性を示した。SNSはコミュニティ活動を把握しきれていないとは限らない。個人ごとに満足度の基準は異なることが予想されるためSNSレベルでの分析だけでは不十分である。SNSを使うことで幸福感に影響を及ぼすとはならなかった。

3. 研究方法

学内の全学年対象に学生にアンケートを紙アンケートで取る

調査内容は次の通りとする。①利用しているSNS②SNS内で関わっている人について③利用時間、投稿頻度④投稿内容⑤生活満足度（学校、家族、友人、アルバイト）

4. 結果と分析

アンケートをまだ取っていないのでまだ分析できていない。

5. 今後の課題

アンケートをどれだけ取れるか、学年が偏らないようになるべく全学年（4年生は少数になるかもしれないが）取りたい。

・ 伊藤俊彦、東田聡「SNS利用者の満足要因分析に関する一考察」『経営情報学会2008年秋季全国研究発表大会要旨集』経営情報学会、2008年。

SNSの利用満足度をはかり、その要因についてより深い理解を可能にする可能性を示した。

・ 河井大介「ソーシャルメディア・パラドックス：メディア利用は友人関係を抑制し精神的健康を悪化させる」『経営情報学会 社会情報学』経営情報学会、2014。

ソーシャルメディアの利用によって友人関係や精神的健康にネガティブな影響を及ぼすソーシャルメディア・パラドックスの可能性が考えられる。よく投稿する人が一時的に友人関係満足や孤独感に対してネガティブな影響を及ぼす傾向がある。

・ 松坂泰介、岩淵千明「SNS利用とSNSの効用及び主観的幸福感の関係性に関する研究」『日本心理学会大会発表論文集』日本心理学会準備委員長鈴木直人、2014。

Facebookの利用と主観的幸福感との関係性に関する研究である。主観的幸福感についての個人の人に対する感情と認知の両面からの評価を研究し、Facebookの利用から主観的副官に有意な正の影響を及ぼしていることが認められた。しかしSMSの効用各因子から主観的幸福感に有意な影響は認められなかった。このことから、Facebook利用からSNSの効用を媒介して、主観的幸福感に影響を及ぼしていることは認められなかった。結果、主観的幸福感に影響を呼ぼしているのはFacebookを利用していること自体であると考えられる。